

親子会話のてびき②

～1日5分から始める、子どもの学ぶ力も心もはぐくむ時間～

三原市教育委員会

会話のかたちは家庭によっていろいろ。それぞれの「ひととき」が、それぞれのペースで、学ぶ力や心といっしょにゆっくり成長していきます。親子会話のてびき①でお伝えしたとおり、無理にがんばらなくても、「ちょっとした関わり方」で、親子の会話が育っていきます。

4 親子の会話が育つとき



(1) いっしょに心が動くとき

「へえ!」「そうなんだね!」と話を受け止めたときの心の動きが伝わると、「自分の気持ちが届いた」と感じます。まずはいっしょに味わうことが「聞いてもらえた」「もっと話したい」という次への一歩になります。

参考：辰 由加 著 子どもの話をちゃんと聴く。 佼成出版社



(2) じっくり考えられるとき

「えーっとね…」この考えこんでいる **しずかな時間**こそ、何もしていないようで、頭がいちばんがんばっているとき。急がずに少し待ってみたり、迷っているときだけ、ヒントをそっと出したりしながら、がんばらせすぎないちょうどいいむずかしさを、いっしょに楽しみます。

参考：庄子寛之 著 子どもが伸びる「待ち上手」な親の習慣 青春出版社



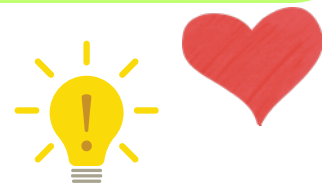
(3) 楽しかったを味わうとき

学ぶ力も、心も、会話も、小さな積み重ねでゆっくり育っていきます。1度の完璧な会話もいはいけれど、できるときに続けるのが一番大切。子どもも大人も無理なく。その積み重ねが、「また話したい」「明日もがんばろう」につながります。

参考：フィリップ・ペリー 著 子どもとの関係が変わる 自分の親に読んでほしかった本 日経BP



次のページでは、親子の会話で**生きる力の芽**がそっと育っていく「ひとこと」を紹介します。いいなと感じた言葉を、ふだんの「ひととき」の中で、そっと使ってみてください。



会話を 豊かな「ことばの遊び場」に

毎日の会話は、子どもの「考える力」や「気持ちを言葉にする力」が自然に育つ「遊び場」です。むずかしいことや、特別な準備はいりません。たとえば1日ひとつ、「ことばのタネ」をそっとまくだけで、親子の対話が広く、深く、やさしく育っていきます。

タネ① どういうこと？

スゴイ、ヤバイ、ビミョーなどいろいろな意味を含む言葉だけでは、思考や心を豊かにできないかも。

「〇〇ってどういうこと？」と問いかけることで、「伝えたいことが何か」を明確にする力がつきます。仕事や友人、生成AI相手でも、適切に伝えられるようになります。誤解やすれ違いが減り「伝わる人」「安心感のある人」になります。



タネ② なぜ？

原因と結果をつなげる力が育ちます。

「なんとなく」ではなく、理由を考える習慣がつき、国語の読解、算数の文章題、理科の予想や仮説を考えるなどの、学びの土台になります。大人になっても、感情だけでなく「なぜそうするのか」考えられ、仕事の段取りや問題解決が上手になります。



タネ③ たとえば？

具体例で説明する力が育ちます。

頭の中のイメージを、相手に伝わる形におろしてくる練習になります。プレゼンテーションや会議の説明をするときに「具体的に分かりやすい人」になります。説明するときに「たとえばー」と、どんな具体レベルでも合わせられる人は相談や指導が上手になります。



タネ④ つまり？

まとめる力、本質をつかむ力が育ちます。長い話やあふれる情報の中から「結局いちばん大事なことは何か？」を抜き出す力がつきます。学んだことをまとめたり、会議の報告、メールや資料作りでも「短く・端的に」伝えられる人になります。



タネ⑤ どんな気持ち？

自分の心の中を見つめ「イライラ」「さみしい」「ほっとした」などの言葉にできるようになります。心の動きを詳しく言葉にできるようになると、心が安定します。友達の気持ちにも目が向き、相手や物語の登場人物の気持ちなども想像しやすくなります。



タネ⑥ もしも？

想像力、未来を見通す力が育ちます。「もしもこうなったら？」と考える習慣が危険回避や創造力の芽につながります。未来をえがき、やりたい仕事や夢、目標をもちやすくなります。新しいアイデアや工夫を生み出す力になります。



6つの「ことばのタネ」は 親子の会話にそっとまくと 「小さな遊具」 になります。今日の会話をちょっとだけ「ことばの遊び場」にしてみませんか？会話は子どものタイミングから。タネをまいたら、大人も返ってきた子どもの言葉を受けとめ、じっくりと楽しみ、一緒に考えてみましょう。



会話の遊びの中で「思考を育む」

中学生になると、親子でゆっくり話す時間は減りがち。でも何気ないおしゃべりが「考える力」や「自分を理解する力」を育てます。ここでは思考を育む6枚の「ことばのカード」を紹介します。全部を完璧に使おうとせず、その日気になったカードをふだんの会話にそっと足してみてください。

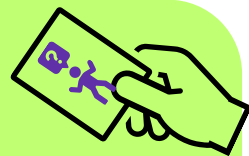
カード① どういうこと？



あいまいなことを明確にするカード

「それって、どういうこと？」「別の言い方だと？」と、言葉を少しだけ掘り下げます。うまく説明できなくても、「じゃあ、こういうこと？」と大人が言い換えの見本を見せるのがコツ。そのくり返しが、「語彙」を増やし、「筋道を立てて考える力」「適切な表現力」を育てます。学校でも、社会でも、生成AI相手でも役立つ力です。

カード② なぜ？



理由や背景を探すカード

「なぜそう思ったの？」「どうしてそうしたの？」と、できごとの裏側を聞けます。正しいか間違いかをすぐ決めず、「なるほど、そう考えたんだ」とまず受け止めること。そこから「ほかの理由もある？」と広げることで、感情だけで動かず、理由をもって判断する力が育っていきます。目的を意識した行動や仕事ができ問題解決が上手になります。

カード③ 例えば？



想像しやすい具体を出すカード

「たとえば、どんな場面？」「最近だと、いつのこと？」と聞いてみます。「学校がしんどい」「友だちと合わない」などの言葉も、具体的な場面を思い出すと、問題の中身が見えてきます。ぼんやりした不安や不満が、「じゃあ、何ができそうかな？」という次の一歩につながりやすくなります。具体で考えると、解決策をイメージしやすくなり、問題を解決する力につながります。

カード④ つまり？



抽象的に一言でまとめるカード

聞いた後に「つまりどういうこと？」とたずねてみます。大人が「つまり〇〇ってこと？」と要約してみせてから「自分の言葉で言うとなんかんじ？」と聞くのもおすすめです。世の中にあふれる情報の中から大事な点を抜き出す練習となり、勉強や社会で生きる要約力が身につきます。

カード⑤ どんな気持ち？



心に目を向け表現するカード

「どんな気持ちだった？」「相手はどう感じたかな？」と、感情を言語化するきっかけをつくります。うまく言えなくても、「モヤモヤ」「イライラ」など、ざっくりした表現から大丈夫。気持ちを言葉にすることで、心を客観的に見つめる力、友だちや登場人物の気持ちを想像する力が育ちます。困ったときに立ち直る力を育てる土台にもなります。

カード⑥ もしも？



仮の状況や未来を描くカード

「別のやり方をするとしたら？」「1年後の自分なら？」など、今とは違う選択肢や未来と一緒に思い描いてみます。正解を教えるのではなく、「いろんな選び方があるよね」と可能性を増やしてあげるイメージ。部活動、進路、人間関係など、答えがひとつではないテーマほど、「もしも？」の対話が、自分で選び、自分で決めていく力を支えていきます。

6枚の「ことばのカード」は、毎日ぜんぶ使うためのチェックリストではありません。忙しい日も、うまく話が續かない日もあります。それでも、ふとした瞬間に、どれか1枚を思い出してもらえたら十分です。親子のおしゃべりは、中学生の心と未来を支える大切な時間です。

